市民が払える国保税に

国保税が高くて払うのが大変、どうにかならないかという多くの市民の声。現在松浦市では正規の国保の保険証をもたない世帯は、資格証明書が16世帯、短期保険証が327世帯。25年2月末で受け取りに来ていない方は69世帯です。安江ゆう子市議は国保税問題について質問しました。

安江　保険証をもっていない69世帯の方の健康状態、生活状況というのは今後注視していかなくてはいけない重要なことです。国保税が決まる根拠に一人当たりの医療費の伸びがあります。22年度が1・5、23年度が1・6、24年度も1・6で、25年度の予想が4％となっておりますが、1・6という試算はできないものでしょうか。

健康ほけん課長　当初予算時には4％で毎年見込んでおります。これはいろんな状況がありまして、突発的な疾病などが発生した場合に医療費は伸びることから、そういうことも予想して4％で当初予算に計上しています。

安江　国は一般会計から国保会計への法定外の繰入金をするなということですが、国保の22年の速報値では全国で3979億円あっています。松浦市でも払える国保にするために法定外の繰り入れを考えたり、基金の一部取り崩しを考えるつもりはありませんか。

健康ほけん課長　国保の運営は厳しい状況ですがこれまで基金を取り崩し、法定外繰り入れはやっていない。これまで繰越金等を入れながら運営をしてきた。今後高齢者の伸び率に伴って高齢者の支援金、介護の納付金など増えてくる可能性がある。基金の取り崩しなどをして国保税の引き下げということは考えていない。

安江　国保財政の困難の大もとは国庫補助金の減少にあります。国庫補助の割合が1980年代の約5割に戻すよう、国に働きかける考えはありませんか。国保税が高くて生活を圧迫して、払うのが大変という多くの市民の声に市長としてどう向き合われますか。払える国保税に下げて、市民の健康を守るそういう考えはありませんか。

市長　一番は国からの支援というものが少し高くなるということが大変重要です。また国保は最終的相互扶助というか、そういう制度ですので、納めていただけるような保険税であってほしい、また被保険者におかれても適正な国保運営ができるように理解もいただけなければならない。現状の財政状況を考えると、負担を1年でも長く維持できるというか、持続できるような努力を引き続き行ってまいりたい。

就学援助は国と地方自治体の責務

星鹿小学校の入学式

就学援助は制度は努力目標でなく、国の地方自治体の責務。全国では1995年に76万人、2007年に142万人、2010年に155万人、2011年に156万7千人が就学援助をうけています。松浦市では2006年に250人、2011年に210人、児童生徒数に占める割合は10％です。経済的な格差で教育を受ける権利が侵害されないようにと就学援助について質問しました。

安江　全国では2011年が16％。松浦市は全国より低い。認定基準の目安はどうなっていますか。

教委庶務課長　松浦市では生活扶助費の1・3倍を収入の限度としています。

安江　生活保護基準が今年の8月から引き下げられて、ざっと計算すると約1割引き下げられます。住民税非課税世帯が課税世帯になり、最低賃金は生活保護基準と連動ですし、生活保護基準の引き下げは生活保護をうけておられる方だけの問題にとどまらず市民全体にかかってきます。就学援助への影響はどうなりますか。

教委庶務課長　基準額もこのままだと下がる予定になるかと思います。ただまだはっきり決まっていないことですので、今ははっきりしたことは申し上げられない。

市長　就学援助の枠を拡大ということは現時点では難しい。

森林農家が希望が持てる援助を

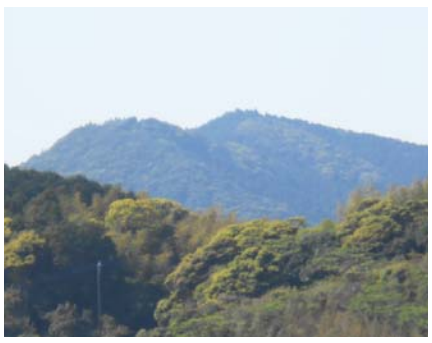
御厨町の大岳生産森林組合の山を平成22年に購入した松浦市。購入後の市の整備状況と市内の森林農家への援助を質問した安江ゆう子市議。

安江　田村厚労省大臣や下村文部科学大臣も「自治体にお願いして基本的に現状維持で対応する」となっていますので、保護費が下がったらと言って基準額を下げるということは国の方針として出ていないので、取りやめてください。2011年から就学援助を受けられる費用にクラブ活動費、PTA会費、生徒会費が対象に加わっていますが、松浦市ではそうなっていません。支給対象に加える考えはありませんか。

農林課長　22年度に購入し、23年度に間伐の計画を立てるための測量調査を実施。24年度に約4ヘクタールの利用間伐を行った。25年度も5ヘクタールの利用間伐を実施する予定。

安江　利用間伐で山が整備されますが、間伐はいくらぐらいで売れるのですか。長期的な構想は。

農林課長　24年度は4ヘクタールで424立方メートルの木材を搬出で、生産額は283万2千円です。大体5ヘクタール単位で間伐を進めていく計画。24年度と25年度で必要な部分は終わってしまい、あとは一定年数を置いて間伐を繰り返す計画。そうして干害防備保安林の機能を保全維持増進していく考えです。


大岳山

安江　松浦市では木質バイオマスの計画がありますが、その取り組み状況は。

農林課長　23年度から農林課内部で事業化に向けた調査や検討を始めた。24年度に県の長崎森林環境税を活用して専門の業者に委託をする予算をつけ、市の森林資源利用研究会で検討協議をしている。

安江　ある林業家の方は、仕事が減って廃業しようかと言っておられる。森林の公共性を見るならば林業に携わっている人が希望が持てる、生活ができる計画をたてないと林業に携わる人の励みになりません。松浦市のその半分をしめる森林を大事にし、松浦市のすばらしさを表現できるものの一つですので市としての工夫と努力をしていただきたい。